

(電子メール施行)
農技第1245号
平成29年7月21日

関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

平成29年度病害虫発生予報第3号を發表します。

平成29年度病害虫発生予報 第3号

向こう1か月の病害虫発生予想

作物名	病害虫名	発生予想	発生現況
イネ	いもち病	平年並	やや少
	紋枯病	平年並	やや少
	もみ枯細菌病	平年並	—
	縞葉枯病	平年並 (一部でやや多)	平年並 (一部でやや多)
	ヒメトビウンカ	やや多	平年並
	セジロウンカ	平年並	やや少
	トビイロウンカ	やや少	少
	ツマグロヨコバイ	やや多	平年並
	斑点米カメムシ類	平年並	やや少
	イネツトムシ	やや多	平年並
	フタオビコヤガ	やや少	やや少
	コブノメイガ	平年並	やや少
野菜共通	ハイマダラノメイガ	やや多	やや多
	ハスモンヨトウ	やや多	平年並
果樹共通	果樹カメムシ類	平年並	やや少

* 気象の概況

近畿地方 1か月予報

(7月22日から8月21日までの天候見通し)

平成29年7月20日
大阪管区气象台 発表

<予想される向こう1か月の天候>

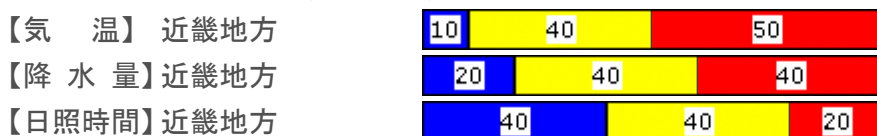
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

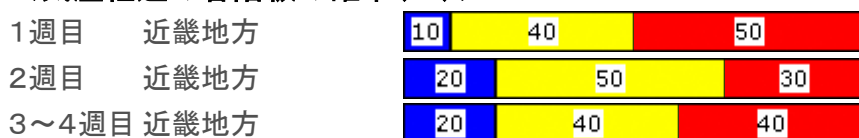
週別の気温は、1週目は、高い確率50%です。2週目は、平年並の確率50%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

<予報の対象期間>

- 1か月 : 7月22日(土)～ 8月21日(月)
- 1週目 : 7月22日(土)～ 7月28日(金)
- 2週目 : 7月29日(土)～ 8月 4日(金)
- 3～4週目 : 8月 5日(土)～ 8月18日(金)

* 発生概況及び防除対策上の留意点

イネ

1 【いもち病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

7月上旬の場内ほ場の調査では発病は確認していない。現地ほ場の調査では、発病ほ場率13.5%とやや少ないものの発生が確認されている。今後の気象条件は、気温は高く、降水量はやや多いと予想され、本病の発生をやや助長するので、平年並の発生で推移すると考えられる。

2 【紋枯病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

7月上旬の場内ほ場の調査では発病は確認していないが、現地ほ場の調査では、発病ほ場率4.3%とやや少ないものの発生が確認されている。今後、気温が高く、降水量もやや多いと予想されているので病徴の水平・垂直進展があり、平年並の発生で推移すると考えられる。

3 【もみ枯細菌病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

出穂期の高温、降雨が本病を助長する。今後の気象条件は、気温は高く、降水量はやや多いと予想されるため、平年並に発生すると考えられる。

4 【縞葉枯病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並（西播磨の一部地域でやや多）
(2) 予報の根拠

7月上旬の現地ほ場では西播磨地域で発生が認められている。5月下旬～6月上旬にコムギの調査定点から採集したヒメトビウンカ第1世代虫の本病ウイルス保毒虫率は、平均1.4%と昨年（2.0%）に比べやや低かった。しかし、西播磨の一部で高い保毒虫率の地域があった。また、ウイルスを媒介するヒメトビウンカの発生がやや多いと予想されており、県全体としては平年並であるが、西播磨の一部ではやや多くなると考えられ注意が必要である。

- (3) その他

今年度の第1世代虫（コムギ採集個体）のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の調査結果については、兵庫県病害虫防除所ホームページ

<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm> を参照されたい。

5 【ヒメトビウンカ】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
(2) 予報の根拠

7月上旬の場内および現地ほ場の調査では、発生量は平年並であった。

今後、高温が続くと予想されており、ヒメトビウンカの増殖好適条件となるため密度増加が進むと考えられる。

- (3) 防除上の留意点
薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守ること。
病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）
(<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

6 【セジロウンカ】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠
7月上旬の場内および現地ほ場の調査で広範囲に発生を認めているが、その発生量は少ない。
今後、高温が続くと予想されているが、8月中旬以降には、本種の増殖適期が過ぎるため、発生量は平年並になると考えられる。

7 【トビイロウンカ】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
(2) 予報の根拠
朝来市、加西市、南あわじ市の3カ所に設置している予察灯への飛来および現地ほ場での発生はまだ確認されていないが、8月以降に発生がみられることがあるので、今後の発生状況に注意が必要である。

8 【ツマグロヨコバイ】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
(2) 予報の根拠
7月上旬の場内および現地ほ場の調査で平年並の発生を確認している。今後、高温が続くことが予想されるため、密度増加が進むと考えられる。
(3) 防除上の留意点
薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守ること。
病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）
(<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

9 【斑点米カメムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠
7月上旬に朝来市、加西市、南あわじ市の3カ所に設置している予察灯で、アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ等の斑点米カメムシ類の発生を確認している。今後、イネの生育に伴い本田で発生すると考えられる。

10 【イネツトムシ】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
(2) 予報の根拠

7月上旬の場内ほ場において発生は確認していないが、現地ほ場の調査で平年程度の発生を確認している。今後、高温が続くことが予想されるため、密度増加が進むと考えられる。

- (3) 防除上の留意点

ア. ほ場をよく観察し、7月下旬から8月上旬に株あたり0.5以上のツトが見られる時は防除を行うこと。

イ. 薬剤防除を行う場合は、病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守ること。

病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

11 【フタオビコヤガ】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
(2) 予報の根拠

7月上旬の場内ほ場での発生は確認していないが、現地ほ場でわずかに発生を確認している。今後はイネの成長に伴い食害適期を過ぎるため、増殖のペースが抑制されると考えられる。

12 【コブノメイガ】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

7月上旬の県予察ほ場および朝来市、加西市、南あわじ市3カ所に設置している予察灯への飛来は確認していないが、三木市現地ほ場の調査で幼虫の加害痕（ツト）をわずかに確認している。現時点で、飛来数は多くないと考えられる。

野菜共通

1 【ハイマダラノメイガ】（アブラナ科野菜）

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
(2) 予報の根拠

誘致植物のクレオメでの寄生は昨年よりも早期から確認されており、7月3半旬の寄生シュート（花枝）率は7.0%（過去5年の平均値1.0%）と高かった。

今後、アブラナ科野菜の作付けまでに密度が増加すると考えられ、被害に対する注意が必要である。

- (3) 防除上の留意点

ア. 育苗期や定植直後の被害が大きいため、発生初期の防除に努める。

イ. 薬剤防除を行う場合は、病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守ること。

病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

2 【ハスモンヨトウ】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
(2) 予報の根拠

加西市、南あわじ市におけるフェロモントラップ調査では誘殺量は平年並であった。今後、高温が続くことが予想されるため、発生の好適条件が続くと考えられる。

- (3) 防除上の留意点

ア. 中齢以降の幼虫には、薬剤による防除効果が低くなるので、若齢幼虫期の防除を徹底する。

イ. 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守ること。

病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

果樹共通

1 【カメムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

加西市のフェロモントラップおよび予察灯におけるカメムシ類の誘殺数はやや少ない状態で推移している。一方、朝来市の予察灯では6月下旬から誘殺数増加の傾向を示している。今後、高温が続くことが予想されるため、カメムシ類の活動が盛んになると考えられるので、果実の被害に注意が必要である。

* この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載
<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>